

アボカドにおけるフェロモントラップ誘殺データを活用したチャハマキの効率的防除

フェロモントラップ誘殺データから若齢幼虫期が予測でき、BT剤による効果的な防除が可能

背景・目的

- ・アボカドではチャハマキによる葉への加害で光合成を妨げられる他、幼果期の加害により、商品価値が喪失
- ・フェロモントラップ誘殺データから次世代の若齢幼虫期を算出し、効果的な防除時期を予測する技術を開発

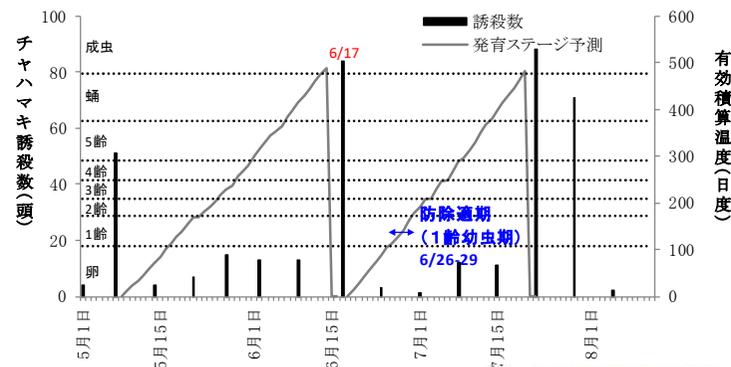
成果の内容

- ・アボカドのチャハマキに対し、性フェロモントラップの誘殺データを基に、平均気温の実測値を用いて次世代の生育ステージを把握することが可能
- ・予測した1齢幼虫期に薬剤を散布することで高い殺虫効果が認められる

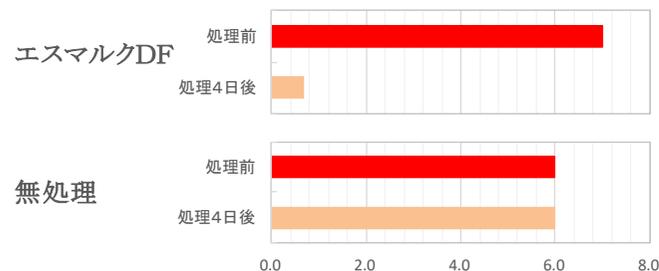
チャハマキの発育ゼロ点及び有効積算温度 (茅・国見, 1990)

ステージ	発育ゼロ点 (°C)	有効積算温度 (日度)
卵	9.6	106.6
幼虫	9.9	260.0
1齢	7.3	64.3
2齢	10.2	38.9
3齢	10.8	37.9
4齢	10.6	42.7
5齢	9.0	84.5
蛹	9.9	101.9

平均気温(実測値)を用いたチャハマキ生育予測と誘殺実績



若齢幼虫期にアボカドへ薬剤を散布した殺虫効果(チャハマキ生存虫数)



誘殺ピーク6月17日を起算日
産卵前期間2日として
第2世代1齢幼虫期を算出
→6月26~29日

・処理: 6月27日



期待される成果

- ・チャハマキの効率的防除
- ・無駄の無い防除によるコスト低減
- ・アボカドの品質と商品果率向上



○普及対象・範囲
県内アボカド生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室